

## 要 旨

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : *n*-ヘプタン酸のオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する  
繁殖阻害試験

試 験 番 号 : A 0 1 0 4 6 3 - 3

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)
- 2) 暴露方式: 半止水式(毎日試験液の全量を交換)  
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供試生物: オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間: 21日間
- 5) 試験濃度: 対照区, 5.0, 10.0, 20.0, 40.0, 80.0 mg/L  
(設定値) (公比: 2.0)
- 6) 試験液量: 80 mL/容器
- 7) 連 数: 10容器/試験区
- 8) 供試生物数: 10頭/試験区(1頭/容器)
- 9) 試験温度: 20±1℃
- 10) 照 明: 室内光, 16時間明(800 lux以下)/8時間暗
- 11) 分 析 法: ガスクロマトグラフィー(GC)

## 試 験 結 果 :

### 1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合が、±20%を越える値があったため、結果の算出には測定値の時間加重平均を用いた。被験物質は水に対してやや難溶で（水溶解度 2410mg/L）、異臭性があり、水系からやや気散する性状を持つこと、また、生分解を受けた可能性もあることから、濃度が減少したと判断した。なお、被験物質は酸性であり高濃度側ほど水中のpHが低下した。

### 2) 21日間暴露後の結果

	(mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)
親ミジンコの半数致死濃度 (LC50)	52.2	40.3～ 77.8
50%繁殖阻害濃度 (EC50)	46.8	43.7～ 65.3
最大無作用濃度 (NOEC)	17.9	—
最小作用濃度 (LOEC)	40.3	—